

4. 災害・復興支援、防災事業

東日本大震災以降、中規模災害が発生すると、協会にボランティアコーディネーターの出動要請が寄せられるようになった。これは、阪神・淡路大震災や東日本大震災、また毎年頻発する災害における支援活動への実績を評価いただいたためである。このような社会情勢と期待に応えるために、2014年9月より協会に「災害支援委員会」を新設し、災害時に戦略的に支援活動に取り組むための「災害・防災基本方針」位置づけた。この基本方針では、協会自身のBCP（事業継続計画）の作成や災害時の出動の仕方や体制づくり、災害の備えとして平時から取り組むことなど、基本的な考え方を整理している。

2016年度は、熊本地震の支援活動の取り組み、新規事業である災害時のスペシャルニーズ事業、SUGによるアソシエーター向け学習会実施、「おおさか災害支援ネットワーク」事業運営、などに取り組んだ。

1. 災害時、あるいは備えとして平時から取り組む事業（大阪府共同募金会の配分金を一部活用）

（1）実災害の対応

①熊本地震での支援活動 ～災害時のスペシャルニーズ支援として、ボランティア・職員がチームで初サポート～

2016年4月14日の前震、15日の本震がいずれも震度7を観測した地震災害が熊本地方を中心に発生。ゆめ風基金の調整のもと、「被災地障害者センターくまもと」の運営支援に入った。なお、災害時のスペシャルニーズの一つである障害者支援団体の運営支援が実現したのは今回が初めて。災害ボランティアセンターではなく、災害時のNPOの役割や市民参加を検討する貴重な機会となった。

- ・活動先：「被災地障害者センターくまもと・JDF熊本支援センター」（熊本県内の20団体程度の障害者団体・福祉団体に運営）
- ・活動期間：2016年4月28日～5月11日（計14日間、のべ40日、のべ320時間）
- ・主な活動：事務所のLAN環境整備、ウェブサイトやSNSの開設補助、チラシ作成、ロゴデザイン、避難所等へのチラシ配布、個別相談支援、相談ケースのデータ整理、NPO連携会議「火の国会議」に参加いただくための調整、など
- ・参加者：9人〔運営支援者4人、運営ボランティア5人〕
 - 一運営支援者：岡村こず恵（4月28～5月1日）、高宮城亜矢香（5月2～5日）、梅田純平（5月5～9日）、椋木美緒（5月8～11日）、青山織衣、土橋一晃らが協会メンバーとして同行（いずれも5月4～5日）。災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）として参加した水谷綾と連携。
 - 一運営ボランティア：紺屋仁志、森本聡（いずれも4月28～5月3日）、入江由美子（4月29～5月1日）、西誠（5月2～5日）、楠正吉（5月5～8日）
- ・熊本地震 緊急募金：募金額669,435円 募金金額：2016年4月28日～9月30日
- ・緊急報告会：「『熊本地震』支援活動の現状と課題 ～発災から1か月、関西からの支援を考える～」
 - 日程：16年5月20日（金） 参加人数：80人
 - 登壇者：寺本弘伸（日本災害救援ボランティアネットワーク）、中嶋俊明（災害復興支援協議会ダッシュ隊大阪）、八幡隆司（ゆめ風基金）、岡村こず恵（大阪ボランティア協会）、今瀬政司（市民活動情報センター）
 - 主催：近畿労働金庫地域共生推進室NPOパートナーシップ制度
 - 協力：近畿勤労者互助会、大阪市立大学大学院都市創造研究科、おおさか災害支援ネットワーク、関西NGO協議会
- ※この他、関西テレビ「カンテレ通信」（6月19日放送）、「おおさか災害支援ネットワーク」ネットワーク会議（7月7日）、震災がつなぐ全国ネットワーク寺子屋事業（10月23日）でも報告。
- ※「日本木材青壮年団体連合会」からの応急仮設小屋（ウッドトランスフォーム）の寄贈を、自立生活支援センター「にしはらむらタンポポハウス」に調整した（第3章に詳細）。



福祉避難所の役割を果たす熊本学園大学にて花田昌宣さん（熊本学園大学水俣学研究センター一長）に状況を伺う



関西テレビ「カンテレ通信」（6月19日放送）にて、永井事務局長が熊本地震での企業連携について報告

② 熊本支援NPO訪問ツアー（2016年度近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度・共通企画）

熊本地震における【高齢者・コミュニティ】【障がい者】【子ども】支援の経験を学び、支援団体はどのような備えが必要なのかを明らかにするために、関西のNPOとともに熊本で復興支援活動に取り組む地元NPOを訪問した。

期 間：2016年9月16日～19日

参加者：28人（NPO関係者、近畿のNPOセンター職員、職員2人・永井、岡村）

活動内容：

- 【高齢者・コミュニティ支援】「西原村 reborn プロジェクトネットワーク」：ニーズ聞き取りのための個別訪問活動、住宅の家屋の壁在の分別作業など
- 【子ども支援】「さくらネット」「子どものエンパワーメントオフィスいわて」：住民交流イベントの調理サポート、舞台景品の準備や片付け、など
- 【障害者支援】「にしはらたんぼぼハウス」、「被災地障害者センターくまもと」：被災物資の整理、団体倉庫の建設、相談者の個人宅の清掃、など

③ 社会貢献担当者による熊本地震における「あいのり災害ボランティア活動」ツアー（第5章に詳細）

(2) 災害時のスペシャルニーズ支援事業

～災害時におけるとっておきの配慮の求め（＝スペシャルニーズ）に応えるためのモデル構築事業～

災害時の特別な配慮（＝スペシャルニーズ）に応える支援活動に取り組む団体が、ボランティア（プロボノ含む）等を受け入れる可能性や課題を明らかにし、ボランティアコーディネーションの「モデル」を構築するため、下記事業を実施した。（大阪府福祉基金地域福祉振興助成金事業）

①ヒアリング調査

調査方法：訪問聞き取り調査

調査対象：〈障害者・難病者支援〉5団体（子ども支援）5団体 計10団体

②アンケート調査

調査方法：郵送配布・郵送回収

調査対象数：障害者・難病者支援 1,103 団体、子ども支援 525 団体
計 1,628

有効回答数：障害者・難病者支援 140、子ども支援 55 計 195 団体（到達数に対する有効回答率 12.6%）



③実践研究会

a) 障害者・難病者支援〈参加団体：10 団体〉

- 第1回 プロジェクトの趣旨説明、各団体の自己紹介と経験の共有
- 第2回 熊本地震の被災状況とボランティア受け入れ事例について
講師：(特非) にしはらたんぼぼハウス施設長 上村加代子（熊本県西原村）
- 第3回 アンケート結果まとめ共有、災害時に発生する課題抽出のワークショップ
講師：跡見学園女子大学教授 鍵谷一
- 第4回 災害時に発生する課題に対する解決策創出のアイデア出し、本年度のまとめ
講師：跡見学園女子大学教授 鍵谷一

b) 子ども支援〈参加団体：9 団体〉

- 第1回 プロジェクトの趣旨説明、各団体の自己紹介と経験の共有。災害時の活動を支える仕組みの講義
講師：本事業子ども支援コーディネーター 水谷綾
- 第2回 災害時の子どもの「あそび」環境の意味と支えの場づくりについて
講師：(特非) 日本冒険遊び場づくり協会統括理事 天野秀昭
- 第3回 東日本大震災や熊本地震などの経験から、子どもを見守る支援者の視点を得る
講師：(公社) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン国内事業部副部長 津田知子
- 第4回 子ども環境を支えるための人的支援の可能性について、災害時のフェーズごとに検討
講師：本事業子ども支援コーディネーター 水谷綾

④フォーラム

テーマ：災害時のスペシャルニーズに応えるために

～福祉の現場を支える市民の力とは【障害者・難病者支援】【子ども支援】～

日 時：2017年3月21日（火）13時30分～16時30分

参加者：52人（一般参加者36人、ゲスト4人、スタッフ12人）

内 容：

- 第1部 基調講演「大災害時のスペシャルニーズと支援方策～大地震、気象攪乱時代を生き抜くために～」
講師：跡見学園女子大学教授、(一社)福祉防災コミュニティ協会代表理事 鍵谷一
- 第2部 パネルディスカッション「災害時のスペシャルニーズを市民が支える秘訣とは」
パネリスト：【障害者支援】(特非) しんせい 富永美保
【子ども支援】(認特) 冒険あそび場一せんだい・みやぎネットワーク 根本暁生
【若者支援】日本福祉大学 山本克彦
コーディネーター：関西福祉大学 萬代由希子



⑤報告書

体 裁：A4、82頁、1,500部作成

配布先：アンケート調査回答者（約140部）、研究会・ヒアリング調査関係者（約50部）

おおさか災害支援ネットワーク（約50部）、配布用（約500部）、関係者など（約700部）

(3) 実災害に生きる人脈づくりやネットワーク構築

①「おおさか災害支援ネットワーク」企画運営（2016年度近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度・大阪企画）

平時より互いの活動を知り、災害に対しての取り組みや課題の共有をしながら“顔の見える関係”を構築していくことが重要というコンセプトのもと、大阪府内の災害時において何らかの支援活動を想定している団体を中心に参加を呼びかけ、「災害をテーマ」に学びと情報交換の場を中心としたネットワークを2014年7月に発足。16年度は年3回、累計では9回開催。参加団体は、社協、日赤、生協、市民活動センター、NPO、コミュニティ組織、共募、労組、労金、全労災、青年会議所、企業、大学、防災士会、国際交流協会、寺院など多様な主体が参加し、累計のべ団体数412、のべ参加者数677人となった。また、大阪だけでなく、兵庫、和歌山、三重、滋賀、東京、沖縄より参加があり、「まいど！」でつながれる関係を継続的に築いている。

a) 第7回

- ・開催日：2016年7月7日（木）14時～18時30分 ・会 場：大阪府立大学 I-site なんば 2階
- ・参加者：57団体95人
- ・内 容：1）開会、2）プレゼン大会（防災・減災啓発／災害・防災ボランティア／活動の支援資金・物資／メディア・情報／学生の“チカラ”／ネットワーク／ネットワークを活かした取り組み／要配慮者支援／企業の強み・持ち味／その他、をテーマに16組が発表）、3）まとめ、参加者からの情報提供、4）交流会

b) 第8回

- ・開催日：2016年10月26日（水）14時～18時
- ・会 場：おおさかパルコープ 本部事務所3階 大会議室
- ・参加者：43団体・69人
- ・内 容：1）開会、2）話題提供「南阿蘇支援ボランティア 竹田ベースキャンプの実践について」（竹田市社会福祉協議会 事務局長・児玉誠三 総務課長・水野匡也）、3）グループワーク「近隣のまちが被災した際に、あなたの団体はどう動くのか？」（ファシリテーター 岡村こず恵・大阪ボランティア協会）、4）全体共有



第8回ネットワーク会議の様子

c) 第9回

- ・開催日：2017年2月9日（木）13時30分～17時30分 ・会 場：大阪府庁 新別館南館8階 大研修室
- ・参加者：43団体・77人
- ・内 容：1）開会、2）講演「避難所について～過去の災害から学ぶこと」（大阪府危機管理室災害対策課災害対策グループ主事・石本沙織）、3）実践事例報告「熊本地震における避難所運営と地域連携～かたらんな交流館御船事務所」（レスキューストックヤード 常務理事・浦野愛）、4）グループワーク「参加団体クロスロードゲーム」、5）参加者からの情報提供

d) 世話役団体（7団体）：大阪府社会福祉協議会、大阪市社会福祉協議会、堺市社会福祉協議会、大阪ボランティア協会、大阪府生活共同組合連合会、日本赤十字社大阪府支部、日本防災士会大阪府支部

- ・会議日程：2016年4月20日、6月10日、7月15日、8月19日、9月15日、11月1日、12月6日、2017年1月13日、3月9日、計9回開催。会議には事務局・岡村こず恵が参画した。

②「まちなか被災シミュレーション」の企画運営への参画

ボランティア活動やガイドヘルプ等で訪れた都心で、障害者やさまざまな事情を抱えた人と一緒に被災した場合に、自分ならどうするのかを参加者に問いかけるワークショップ「まちなか被災シミュレーション」。障害当事者の目線、ボランティア・介助者の役割など、各々の事情を察しながらも安全を確保し、無事に避難することをチームで考える機会を提供。2016年度は主催を2回開催。この企画運営に災害支援委員・森本聡と永井美佳が参画した。

【第11回】2016年10月30日（日）11時30分～17時 ・参加者：28人（うちスタッフ8人） ・会場：箕面市編

【第12回】2017年2月25日（土）13時～16時30分 ・参加者：19人（うちスタッフ6人） ・会場：兵庫県川西市編
・企画運営：同実行委員会（通称「アロハーズ」：日常生活支援ネットワーク（事務局）、b-free、ライフサポートネットワークいけだ、大阪ボランティア協会）

③「ゆめ風基金 ず〜っと続けてく被災障害者救援 街頭募金活動」への参画

東日本大震災発生直後から毎月続けてきた募金活動。2013年度より毎月第2土曜日13時～17時、大阪タカシマヤ前にて開催。協会からは、「ボランティアスタイル」のプログラム「震災復興募金ボランティア」を通じて、全7回参加し、25人のボランティアをつないだ。第2章に関連報告。

④ 震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI 2017～わたしたちの6年。～つながる・そなえる・ささえあう～」の企画運営と同実行委員会の事務局運営

「おたがいさま」「忘れない」「関西でできること」をテーマに掲げて2011年度より通算6回目の開催となった。4回目以降は、「関西でできること」のなかに、関西における災害時ネットワークの構築をねらいに含めて企画をしており、第2フェーズとして位置づけている。協会は16年度も同実行委員長に早瀬昇が、同事務局長に永井美佳が就き、事務局を担った。



- ・日 時：2017年3月11日（土）メイン会場・14時～18時15分、サブ会場・12時15分～18時15分
- ・会 場：梅田スカイビル タワーイースト36階 メイン会場・スカイルーム1、サブ会場・スカイルーム2
- ・参加者：375人（メイン会場185人、サブ会場のべ190人）
- ・内 容：【メイン会場】14時から第1部「あれから6年。東北とつながる」（講師：田村太郎（(一財)ダイバーシティ研究所）、14時35分から「祈り～黙とう」、15時から第2部①「そなえる、ささえあう part 1 被災地を越えて考える日頃の備え」（ゲスト：神戸・野崎隆一、岩手・鹿野順一、熊本・吉村静代、進行：田村太郎）、16時45分から第2部①「そなえる、ささえあう part 2 多様な担い手で支え合う地域づくり」（ゲスト：学生・原田奈実・奥田晴香、中小企業・笠井文廣・湯井恵美子、市長・稲村和美、進行：早瀬昇）【サブ会場】12時15分から「1日限りの写真展2017「わたしの見た3.11」、3.11にちなんだDVD上映コーナー、カフェコーナー、「震災復興応援のための物販コーナー」（生活協同組合おおさかパルコープ、トゥギャザー、同実行委員会
- ・主 催：3.11 from KANSAI 実行委員会 [構成団体]（一財）ダイバーシティ研究所／（特）遠野まごころネット／（特）ユースビジョン／（福）大阪ボランティア協会（事務局） [運営協力団体] おおさか災害支援ネットワーク／（福）大阪市社会福祉協議会／（認特）トゥギャザー／（株）PRリンク
- ・協賛企業：大阪ガス㈱／近畿労働金庫／サントリーホールディングス㈱／積水ハウス㈱／大日本住友製薬㈱／産経新聞社／センコー㈱／東武トップツアーズ㈱大阪法人事業部第2営業部

⑤「災害がつなぐ全国ネットワーク（震つな）」への参画（第7章で報告）

（4）災害時に動ける人づくり

①災害・防災をテーマとした講師派遣依頼

2016年度に依頼を受けた災害・防災をテーマとした講師派遣は7件（14年度4件）だった。災害ボランティアセンターの運営や災害ボランティア入門などのテーマで依頼を受けた。

②SUG（すぐに動きますグループ）を中心とした災害ボランティアリーダー育成（大阪府共同募金会助成事業）

前述の広島土砂災害での実災害支援の実感をもとに、2014年12月に「SUG（すぐに動きますグループ）」を結成。有事を想定して、災害ボランティアリーダー育成のため研修事業を実施。

日 程：2016年11月6日 参加者数：30人

テーマ：「あなたならどうする？ 大災害後の72時間。あなた自身と協会のかかわり」

2. その他、災害に起因して取り組むもの（広域避難者の支援活動）

全国の避難者等の数は約11万9千人で、全国47都道府県、1090の市区町村に所在している。このうち近畿には、106市区町村に2337人が確認されている（復興庁調べ2017年3月13日現在）。16年度は、随時、避難者支援活動に取り組むグループ（パートナー登録に2団体）の運営相談にのったり、「ホットネットおおさか（大阪府下避難者支援団体等連絡協議会）」に参加し避難者支援活動にかかる情報収集を継続したりした。